八戸工業高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	地理Ⅰ(0211)

科目基礎情報

科目番号	1Z03	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	産業システム工学科環境都市・建築デザインコース	対象学年	1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	地理Ｂ/東京書籍、新高等地図/東京書籍、GCSE Geography AQA Student Book		
担当教員	河村 信治		

到達目標

自然環境と人間の生活についての地理的見方、考え方が理解できる。
環境、国際社会など地理的な課題について自分自身との関わりを自覚し、広い視点を持ち、論理的に考えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
	自然的環境への高い関心と防災意識を持つことができる。	プレートテクトニクス、大気の大循環のメカニズムが理解できる	地震や気象災害、温暖化の被害等について理解できない。
	気候変動に関する英文教科書が読解できる	ケッペンによる各気候区の概念が理解できる	自然環境と人間活動の関係が理解できない
	持続可能な社会に向けて積極的に活動することができる	地球環境問題と環境保全の考え方が理解できる	持続可能性、多様性の意味を理解できていない
	世界の資源・エネルギーおよび産業について構造的な課題を理解できる	世界の資源・エネルギーおよび産業について、授業でとりあげた内容を理解できる	世界の資源・エネルギーおよび産業について、授業でとりあげた内容を理解できない

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 DP1 豊かな人間性の涵養
地域志向 ○

教育方法等

概要	【開講学期】春学期週4時間 世界の自然的環境と人間社会との関係、地域内あるいは地域間のさまざまな現象の構造や関係を理解する。 それは自分自身と、地域、国際社会、地球環境とのつながりを考えることでもある。 網羅的な知識より、諸事象の構造や関係性の理解を重視し、また現代の環境問題や国際化・情報化社会に主体的に向き合っていくための原則や基本的考え方を養うことを目標とする。
授業の進め方・方法	地理Ⅰ（春学期）では主に「自然環境（地形・気候）」、「地球環境問題と持続可能な社会」、「資源、エネルギー」、「産業」についての基礎的な講義を進める。世界の自然環境と産業・経済活動の地理的な捉えかた、考え方について学ぶ。いくつかのテーマについて英語のテキストブック（GCSE Geography）を使用して授業を行う。
注意点	春学期は週2回（4時間）の講義であるが、授業中は板書ノートをしっかりとること。また、学習内容の復習とともに、学習のプロセスとそこから気づいたことを各自よくふりかえり整理しておくことが必要。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	地理的見方・考え方	グローバルな社会や地球環境の見方を理解する。
		2週	地形と地形形成営力	
		3週	気候環境	
		4週	気候区分(1)	
		5週	気候区分(2)	
		6週	地球環境問題(1)	地球温暖化はじめ主な地球環境問題の原因と対策について説明できる。
		7週	地球環境問題(2)	環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。
		8週	環境問題の構図	エコロジーや持続可能な発展の考え方について説明できる。
	2ndQ	9週	持続可能な社会(1)	
		10週	持続可能な社会(2)	持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。
		11週	資源とエネルギー	
		12週	産業(1)	
		13週	産業(2)	
		14週	産業(3)	
		15週	到達度試験	
		16週	ふりかえりとまとめ	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	ライフサイエンス/アースサイエンス	ライフサイエンス/アースサイエンス	生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。	3	前8
				生態ピラミッドについて説明できる。	3	前8
				熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。	3	前6
				地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	3	前6

	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	前7
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前6,前10
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	前1,前10
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	前10

評価割合

	試験	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100
専門的能力	0	0
分野横断的能力	0	0